

令和3年12月3日

『関東支部創立15周年記念シンポジウム』開催報告

名 称：関東支部創立15周年記念シンポジウム

テーマ：地すべり技術の現状と課題－会長経験者に聞く－

主 催：公益社団法人日本地すべり学会関東支部

期 日：令和3年8月24日（火）13：30～16:30（接続開始13:15）

形 式：オンライン形式開催

オンライン形式

会 場：航空会館よりZoom配信

定 員：200名

参加費：無料（要申込）

次 第：

13:15 接続開始

13:30 開会

13:30-13:35 挨拶 櫻井正明（日本地すべり学会関東支部長）

ご講演

○落合博貴（一般社団法人日本森林技術協会 技術指導役）

13:35-14:10 「最近の土砂災害と森林の機能について」

○土屋 智（静岡大学名誉教授，国土防災技術(株) 斜面環境研究所 所長）

14:10-14:45 「九州北部豪雨に伴う斜面崩壊の発生場の特徴」

○檜垣大助（弘前大学名誉教授，日本工営(株) 国土基盤整備事業本部 理事・技師長）

14:45-15:20 「地形情報を活かした斜面災害リスクへの対応」

15:20-15:30 休憩

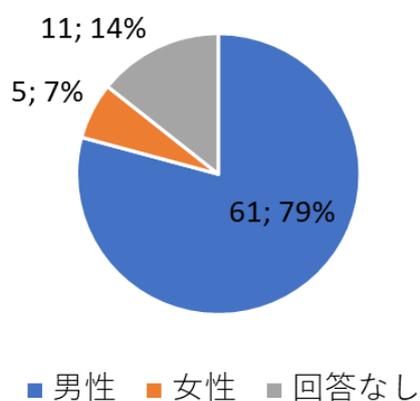
15:30-16:30 質疑応答・意見交換（講演者間）

16:30 閉会

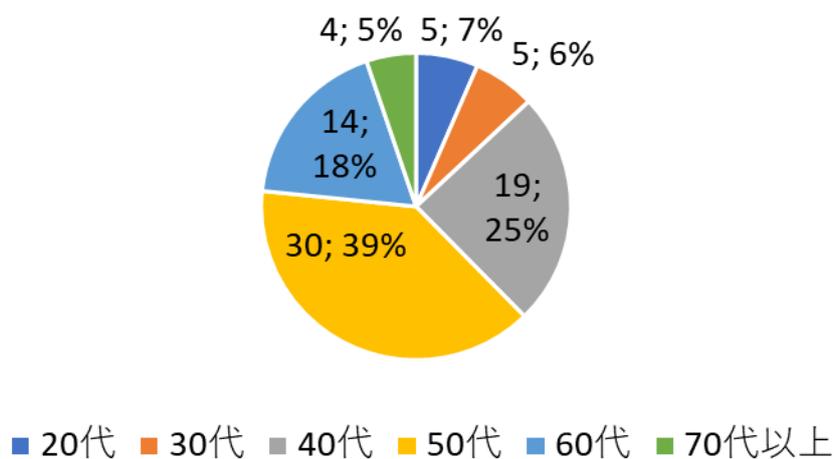
CPD：森林分野CPD（建設系CPD協議会加盟）の認定プログラム アンケートに回答し希望する方に参加票をメールで配布

※155名が参加。講師のご講演動画はホームページに掲載。

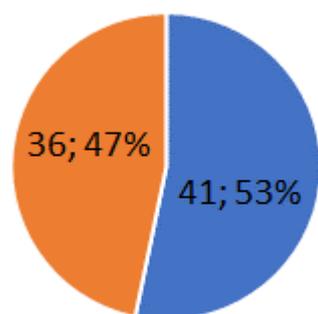
1. 回答者の性別



2. 回答者の年齢

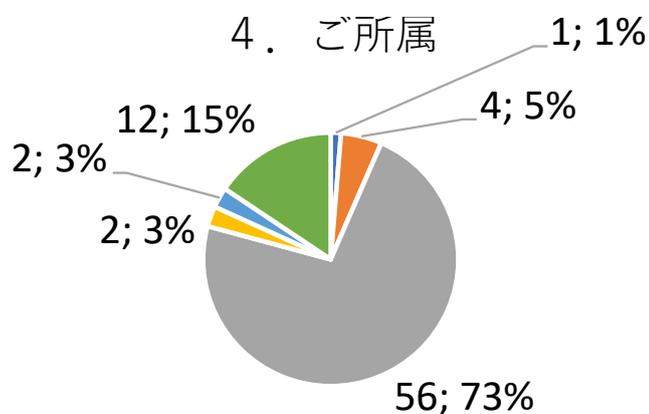


3. 日本地すべり学会の会員



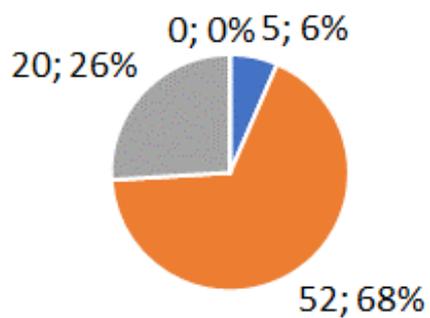
■ 会員 ■ 非会員

4. ご所属



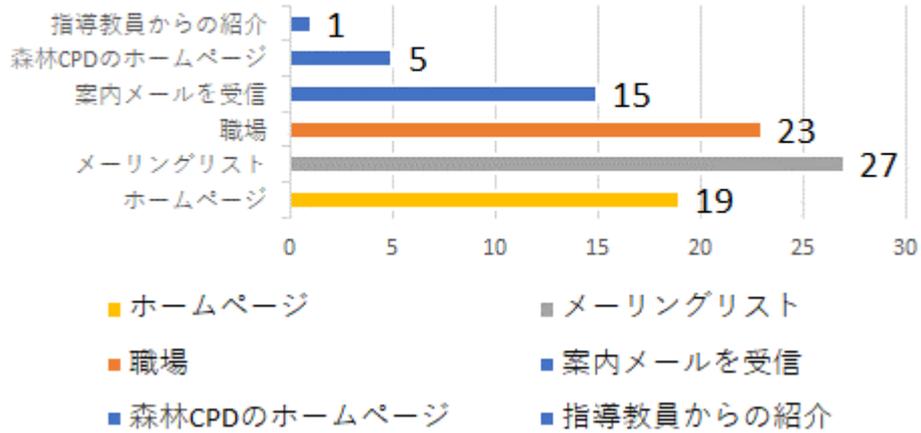
- 学生
- 大学・研究機関
- 建設コンサルタント
- 建設会社
- 官公庁
- その他

5. 今回のテーマとなった「地すべり技術の現状と課題」について、どの程度知識をお持ちでしたか？

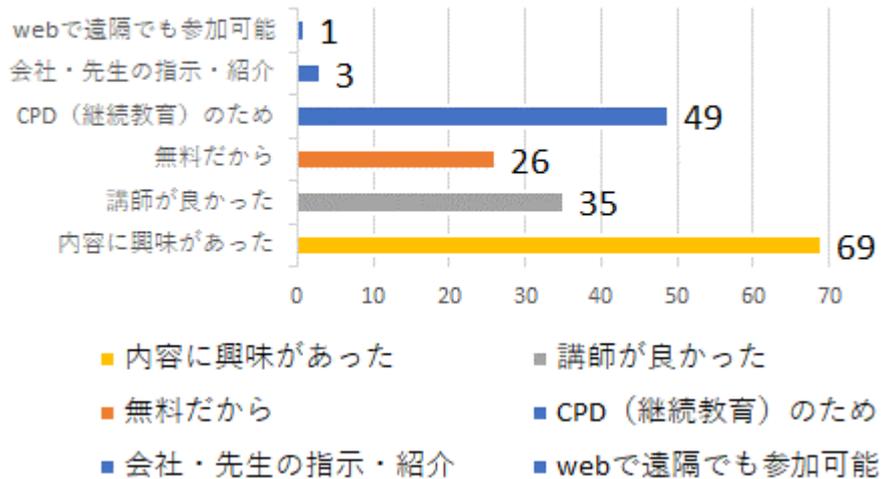


- 良く知っている
- ある程度知っている
- あまり知らない
- 全く知らない

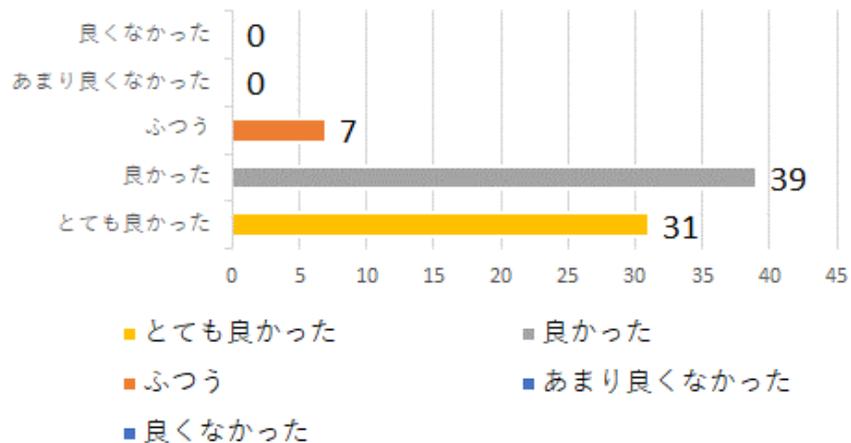
6. 今回のシンポジウムを何で知りましたか？（複数回答可）



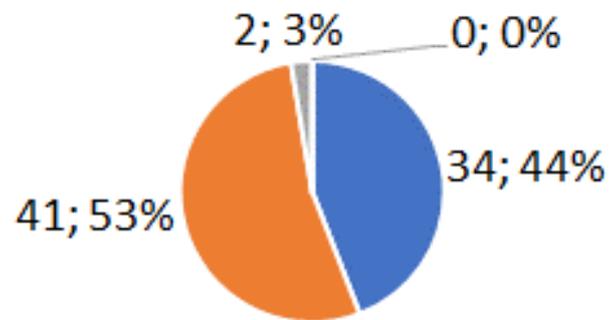
7. 参加しようと思った動機はなんですか？（複数回答可）



8. 参加して良かったと思いますか？

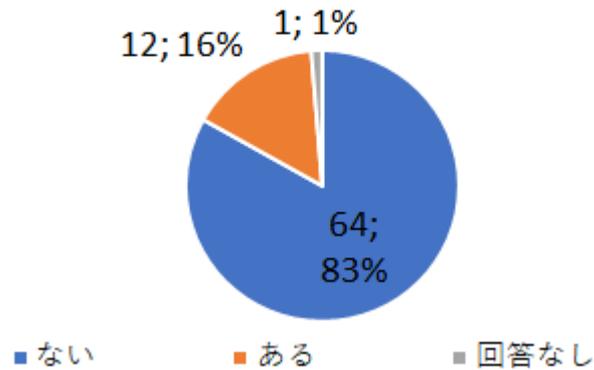


9. 内容は理解できましたか？



- 理解できた
- どちらかと言えば理解できた
- どちらかと言えば理解できなかった
- 理解できなかった

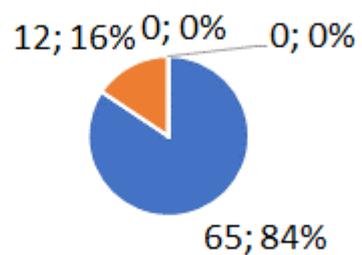
10. 改善した方が良いと思われるところがありますか？



「ある」と答えた方に、その内容（ご自由にお書きください）。

-
- ・ポインタ（カーソル）を使えるとよい
 - ・講演中に地図や図面を説明する際に、赤色ポイント等で指される箇所が見えなくて音声だけでは、分からなかった。
 - ・途中音声が途切れたり、講師の方が操作するポインターの表示が見えなかったりした。
 - ・パワーポイントのポインターを使用してほしかった
 - ・資料が段組になっており、PCの画面では見難かった。データで配布する場合は、1ページに1枚がよいのではないかと思う。
 - ・発表時にポインターを使用してほしかった。
 - ・後日でもよいが総合討論のまとめがあるとよいと思います。
 - ・パワポのポイントが表示されなかった
 - ・ポインターを表示できるようにした方がよいので、PDFよりもPPTにした方がよいのではないのでしょうか。
 - ・私だけかもしれませんが、音声が途切れたこと。
 - ・配信環境：音声が途切れてしまうことが数回あった。スライドを指すポインタが作動していないかった。以上
 - ・表層崩壊防止に樹木根系が影響を与えているのであれば、崩壊すべり面・弱層を根系が杭として貫通しているなど、弱層と根系の位置関係が知りたかったです。
-

11. 今後もこのようなイベントに参加したいですか？



- 参加したい
- どちらかと言えば参加したい
- どちらかと言えば参加したくない
- 参加したくない

1 2. 今後、取り上げてほしいテーマがありましたら、ご自由にお書きください。

- ・地震に伴って発生する地すべりに関して。海洋底の地すべりに関して。
 - ・地形解析における点群データの活用
 - ・地すべり防止施設の維持管理
 - ・線状降水帯と崩壊
 - ・地すべり発生箇所の予測手法の現状と課題
 - ・深層崩壊対策について
 - ・地すべり対策における 3 次元安定解析について
 - ・BIM/CIM
 - ・地すべり等危険地形の判読
 - ・地すべり対策施設の補修・改築
 - ・今夏発生した九州・中国地方を中心とした豪雨災害の被災、対策事例
-

1 3. その他、ご意見・ご感想等がありましたら、ご自由にお書きください。

- ・大変興味深く拝聴いたしました。有意義な時間をありがとうございました。
- ・大変勉強になりました
- ・3人の講演内容があるテーマで関連性がある方が良いと思いました。
- ・無料で今後も開催してほしい
- ・針葉樹の根径は知ることができるが、広葉樹においては見たことがなく、現地調査を実施した貴重なデータ収集をしていることにご苦労を感じた。
- ・資料が大変分かり易く改めて理解が深まりました。
- ・落合先生の発表にあった根系の緊縛効果について、多くのデータを示されていて大変参考となりました。
- ・根系の補強効果については、「森林の土砂崩壊防止機能」森林の公益機能解説シリーズ6、昭和62年3月、日本治山治水協会発行に詳しく述べられています。
- ・発表者皆様が非常に丁寧に説明いただけ、とてもわかり易かったです。
- ・所用でほとんど拝聴できませんでしたが、配布資料は大変、勉強になりました。
- ・1.森林の機能の評価、定量化は難しいこと。数m、数十cm単位のミクロの評価は難しいと考えます。 2.2016九州北部豪雨、2018厚真崩壊(地震ですが)の多数の崩壊発生と、2021/7豪雨も雨量は多いが局所的な崩壊と何が異なるのか、改めて考えていきたいと思えます。 3.地形の傾斜角と崩壊の関係は感覚的には認識できますが、その他の要因も多いと考えます。経年的な地形変化を踏まえて、検討する必要性は承知しました。
- ・斜面安定(不安定)に対して、植生(根系)、降水、地形といった先生方三者三様のアプローチがなされていて大変興味深かったです。今後も、土砂移動に対してどのような要因が関わり、どのような重みづけをすれば再現性が高いのかについて取り上げてほしいです。
- ・檜垣先生宛 ご発表にありました判読技術の継承と発展に関しては全く同意見です。数値標高データの解析により判読対象箇所のスクリーニングの効率化が期待できると考えます。しかしながら、それを目的とする事象であるかどうかを結論づけるには判読という段階は不可欠だとも考えています。 檜垣先生から微地形が見えすぎてしまうとのコメントがありましたが、起伏量図や傾斜量図等様々な図のテクスチャー判読に適切なパラメータの設定など前処理に関する研究も重要だと考えています。 本日はありがとうございました。
- ・地すべり移動と観測データの捉え方
- ・復旧事業で携わった現地がテーマになっており、理解が深まった。テーマを認識するのに有意義であった。
- ・コロナ収束後のシンポジウムについては会場参加型とオンラインの併用を検討していただければと思います。

- ・土屋先生への質問です。法律では急傾斜地は勾配 30° 以上となっています。10m × ッッシュで平均化されていますが、朝倉の事例で勾配 30° 未満でも崩壊が生じているなら、予想される降雨状況によっては今後 30° 未満の斜面でも避難を検討するような方向になっていくのでしょうか。
 - ・地すべり防止では、排水工・杭打ち工等が主に経験してきました。今回の研究発表では、森林の木根が表層崩壊に効果がある研究発表でした。大変興味を持って拝聴いたしました、今後の研究に大いに期待したいと思いました。
 - ・大変勉強になりました。
 - ・開催運営に関わられた皆さま、お疲れさまでした。そして、講師の先生方、ありがとうございました。
 - ・講師の発表内容に対して、他の講師の見解を聞く方法はよかった。
 - ・勉強になりました
 - ・歴代の会長にお話を聞くことは大変勉強になりました。ありがとうございました。
 - ・建設でも活用できる CPD
 - ・土日開催や録画データの公開があると参加しやすいです。
 - ・今回は記念シンポジウムなので幅広いテーマでしたが、植生の崩壊防止機能、災害報告等、テーマに沿った複数の先生の講演が聞ければと思います。
-

1 4. CPD参加票の発行を希望しますか？

